

2023年度 事業報告書

2023年4月 1日から

2024年3月31日まで

学校法人 豊中キリスト教会学園

1. 法人の概要

名称 学校法人 豊中キリスト教会学園（1989年4月1日法人設立）

代表者 理事長 山崎 墨偉

住所 豊中市末広町1丁目2番28号

電話 06-6853-9677

FAX 06-6853-9687

設置する学校

住所 豊中市末広町1丁目2番28号

名称 幼保連携型認定こども園 豊中愛光幼稚園

役員

理事 6名

監事 2名

評議員 13名

理事会 5回開催

評議員会 3回開催

職員 31名

2. 事業概要

（認定こども園 豊中愛光幼稚園）

《教育方針》

キリスト教精神に基づき、自由遊びを中心とした保育を進める。主体性と社会性、創造性と責任感を持った心身ともの調和のとれた子どもに成長するよう導く。

《教育内容》

遊び込みと異年齢保育による子どもたちのつながりの中から、自由に育ち、自由な発想と自ら考えて決める喜び、そして協調性を楽しむ心、神を愛し、人を愛し、自分を愛する子どもに育つように、安全できめ細かい保育と環境作りを行う。

《園児数》

1・2号子ども

	3歳児		4歳児		5歳児		クラス数計	園児数計
	クラス数	園児数	クラス数	園児数	クラス数	園児数		
利用定員	1	22	1	25	1	25	3	72
2021年度	1	27	1	27	1	22	3	76
2022年度	1	21	1	26	1	26	3	73
2023年度	1	21	1	22	1	26	3	69

3号子ども

	0歳児		1歳児		2歳児		クラス数計	園児数計
	クラス数	園児数	クラス数	園児数	クラス数	園児数		
利用定員	1	3	1	10	1	10	3	23
2021年度	1	3	1	10	1	12	3	25
2022年度	1	3	1	10	1	12	3	25
2023年度	1	3	1	10	1	12	3	25

《保育時間及び延長保育》

教育標準時間

1号認定こども

保育時間 午前9時～午後2時 月曜日～金曜日 土・日曜日休園日

延長時間 午前8時～午前9時、午後2時～午後6時

2号認定こども・3号認定こども

標準保育時間 午前7時～午後6時 月曜日～土曜日

延長保育 午後6時～午後7時

短時間保育 午前9時～午後5時

延長保育 午前7時～午前9時、午後5時～午後7時 月曜日～土曜日

《納付金》

保育料 市町村の納付税に応じて。豊中市等市町村が定めた額。

特定保育料 3歳以上クラスの入園者は、施設設備充実費として納入する。

① 在園の進級児(4歳以上)は年間 20,000円

② 新入園児(3歳以上)と転入児(3歳以上)は年間 36,000円

《上乗せ徴収》

項目	金額	備考
給食費(1号こども)	月額 4,500円	
給食費(2号こども)	月額 6,500円	就労中
	月額 6,000円	産休・育児休暇中
	1回 300円	土曜保育利用時
絵本代	月額 420円	
入園児用品代	17,700円	1号こども・2号こども
	5,360円	3号こども
遠足費	交通費等必要経費実費相当	
卒園積立金	月額 500円	年長児のみ
卒園アルバム代	月額 1,500円	年長児のみ
預かり保育	2時間 300円	1号こども
延長保育	1時間 200円	2号こども・3号こども

《入園時の費用》

事務手数料 5,000円

《預り保育の内容》

月～金曜日 午後2時～午後6時 夏冬春休み中の預かりも実施。

《行事実予定》

春（4月） 入園式、進級式、春の日礼拝、花の日、春の遠足
夏 水あそび、夏期保育、デイキャンプ
秋 秋の遠足、かがやけひかりのこどもたち！（運動会）、秋の実り礼拝
冬 クリスマス礼拝と祝会、お餅つき、芸術鑑賞会、お店屋さんごっこ
春（3月） 春の訪れを喜ぶ会（ひなまつり）、お別れ会、修了式、卒園式
毎月 誕生会
毎週月曜日 特別礼拝日

《施設関係》

敷地面積 763.90㎡ 運動場面積 402.95㎡
園舎面積 539.89㎡ 構造 RC構造
耐震工事 2014年3月に工事完了
1階保育室建具取替工事、2階保育室フローリング補修工事等の実施

《設備関係》

保育室関係(仕切り扉建具鍵取替、引き戸レール修繕、フローリング補修、木浴室壁パネル修繕等)、給食室関係（スチコン浄水器交換、給食室ガス給湯器取替）
災害用電源ソーラーパネル、パソコンの取得、防犯で求められる設備の整備、
災害時を想定した備品類の整備

《計画内容》

社会変動に伴う様々な課題と急激な少子化が進んでいる。その中、キリスト教の精神を土台に一人ひとりのこどもたちを大切に教育・保育実践に取り組み、その質の向上に努めている。内容として、園の特徴(キリスト教保育、異年齢保育、チーム協働、子育て支援など)の充実を図ることを念頭に5事業（1. 教職員の教育・保育力の向上、2. 教育・保育環境の整備と改善、3. 働きやすい職場環境の構築、4. 子育て支援事業の実施、5. 100周年事業計画の検討）に取り組んだ。

1. 教職員の教育・保育力の向上

さまざまな研修に積極的に参加できるように努めた。園外研修は、コロナ禍以降オンライン受講可能な研修も増えたため、各保育教諭が教育・保育の現状や個々の課題となる学びをブラッシュアップする機会を持つことができた。また、園内研修では、園の日常を振り返りから、一人ひとりのこどもの成長やこどもをとりまく環境についてなど。課題について対話し、キリスト教保育の実践の大切さを確認し合いながら教育・保育力向上に努めた。

2. 教育・保育環境の改善

異年齢保育の充実を図るため、教職員が積極的に必要な教育・保育環境の工夫

を行えるように進めた。ここ数年建物の経年劣化に伴う予想外の修繕や改善について、安全面を考慮して教育・保育の支障がでないように進めている。また、昨今の能登半島地震などの災害を想定し、避難訓練等を実践的な対応を毎月実施している。

3. 働きやすい職場環境の整備

育児休暇を取得する職員が増え、継続して働く思いへつながっていることや新規採用職員も迎えることができた年であった。その中で、よりチーム内で互いの役割に対する意識と助け合いが必要となった。また、成長課題が考えられる配慮を必要とするこどもたちの対応が増えている。より一人ひとりの育ちに対応するために教職員体制の充実が必要と考え、非常勤職員の雇用を求めたが思うように整わない現状がある。教職員採用は、厳しい状況が続いているが離職者を出さないように教職員組織を安定させるように傾注している。今後も教職員が互いを尊敬し合いながらコミュニケーションをとり、よりよい関係構築を図ることができる職場環境を整えることや採用に効果があったと考える実習生やアルバイト学生の積極的に受け入れを行うように努める必要がある。

デジタル化(ITC)を現場に即した形に変えて進めているが、統一した運用についての教職員間の共有が今後必要な取り組みである。

4. 計画性を持った子育て支援の実現

地域・社会で必要と求められる子育て支援(「こども誰でも通園制度」や満3歳児保育など)が、コロナ禍以降さらに多岐にわたって必要となっていると考える。その中、当園で実施可能なことを教職員の体制等を考慮しながら8項目(1. 園庭開放『ひよこ』開催、2. キンダーカウンセラーの実施、3. 子育て相談の実施と取り組み、4. 2歳児親子教室『うさぎ』開催、5. P.T.A. 活動への協力と連携、6. 子育て応援のための講演会や集いの場などの実施、7. 卒園児支援『ひかりのこ』クラスの実施、8. 実習や体験の受入れ、などの実施に努めた。

実施した中で、園庭開放『ひよこ』や2歳児の親子教室『うさぎ』は、入園前の親子が園を知る大切な機会となっているが、各ご家庭が入園後も園と同じ方向を向いて子育てを楽しむ環境となる大切な子育て支援の場であることを踏まえた活動内容を展開できるように努めた。

卒園児支援『ひかりのこ』クラスの実施はなかったが、小学校就学に向けた接続支援の取り組みについての充実が求められると考えられる。

5. 100周年事業計画の検討

100周年事業計画委員会の発足し、準備(予算化含め)を進めている。

<収支予算書>

別紙の通り